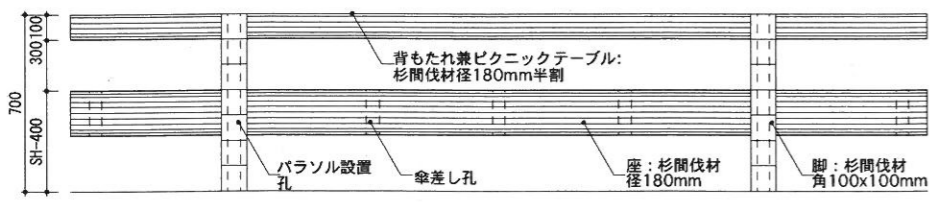
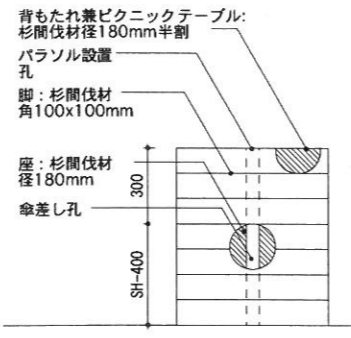


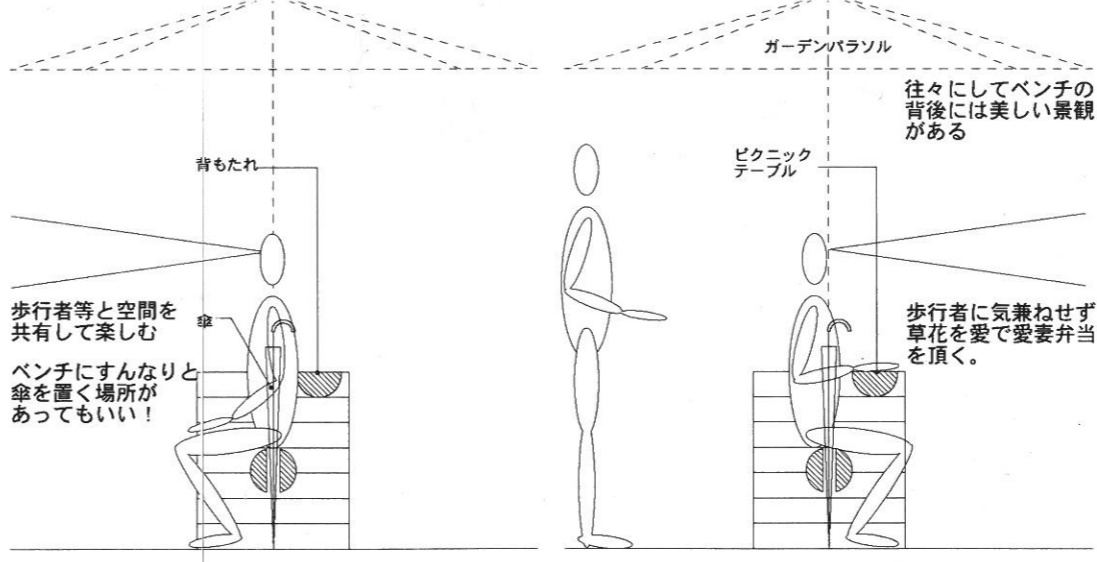
SH-400タイプ平面図 s.1/30



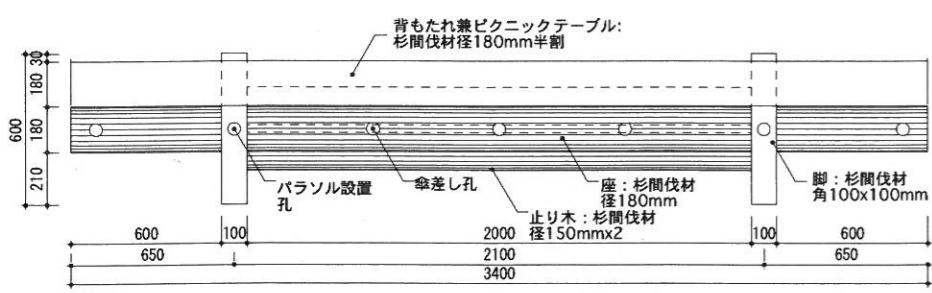
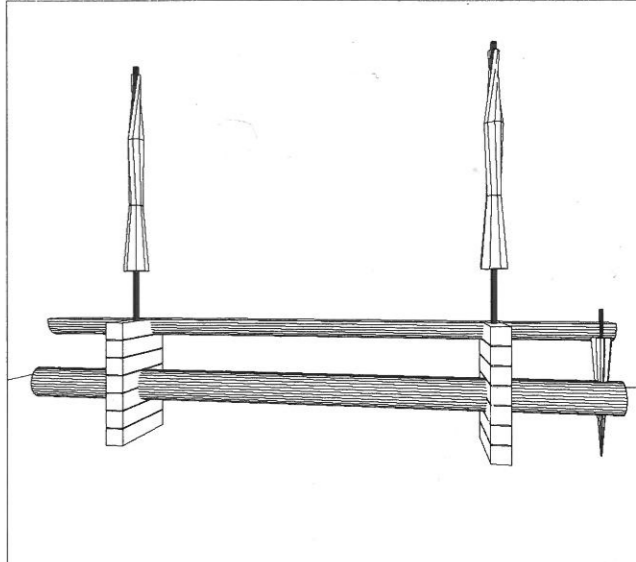
SH-400タイプ立面図 s.1/30



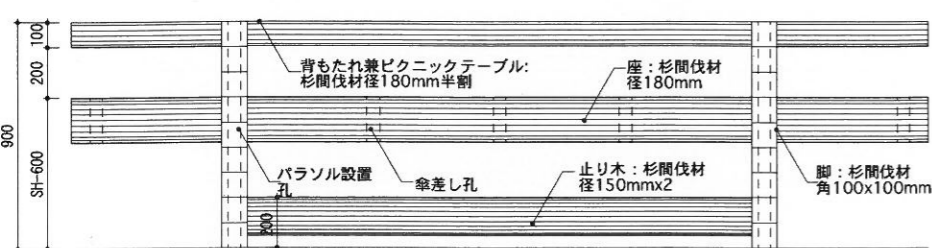
SH-400タイプ断面図 s.1/30



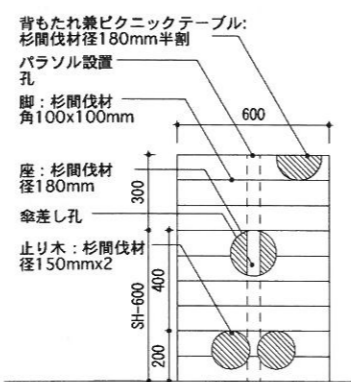
SH-400タイプ使い勝手イメージ断面図 s.1/30



SH-600タイプ平面図 s.1/30



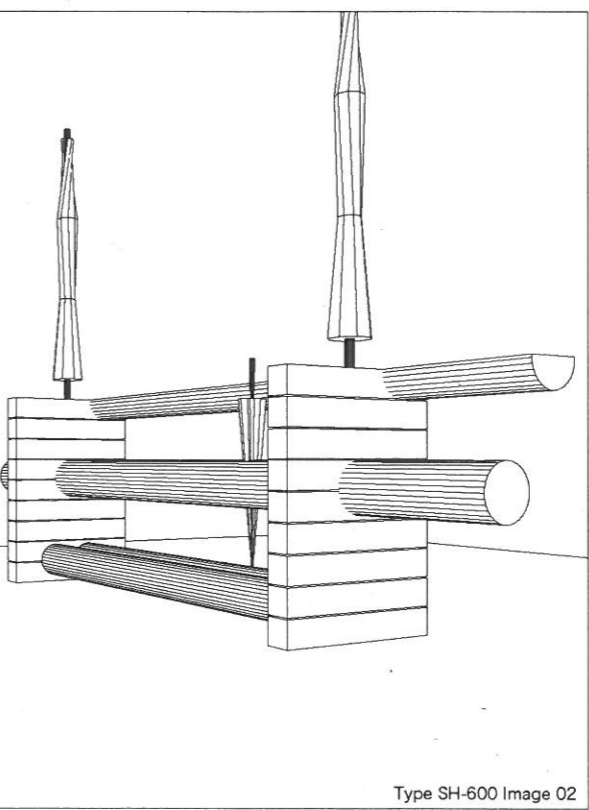
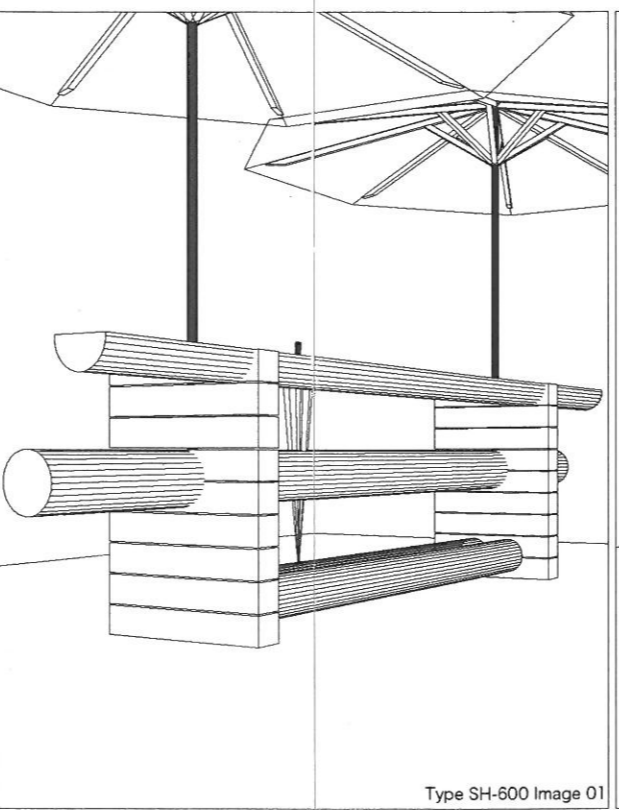
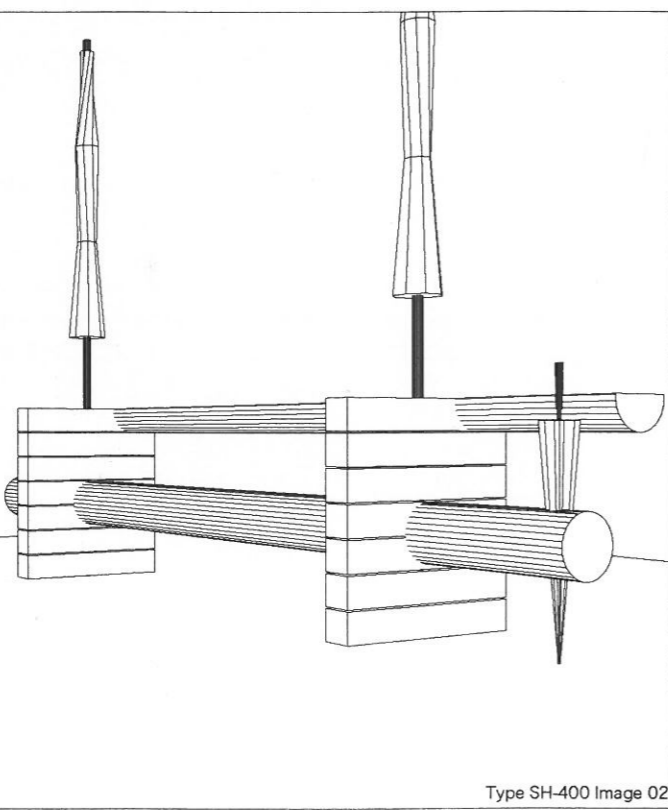
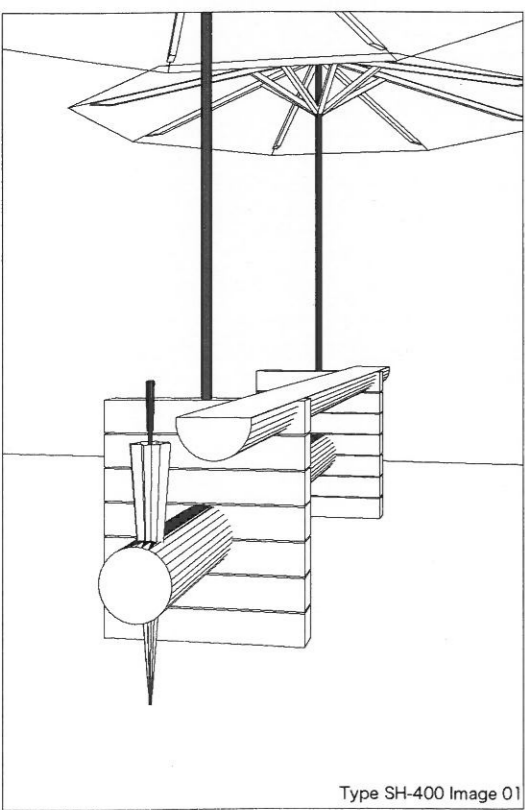
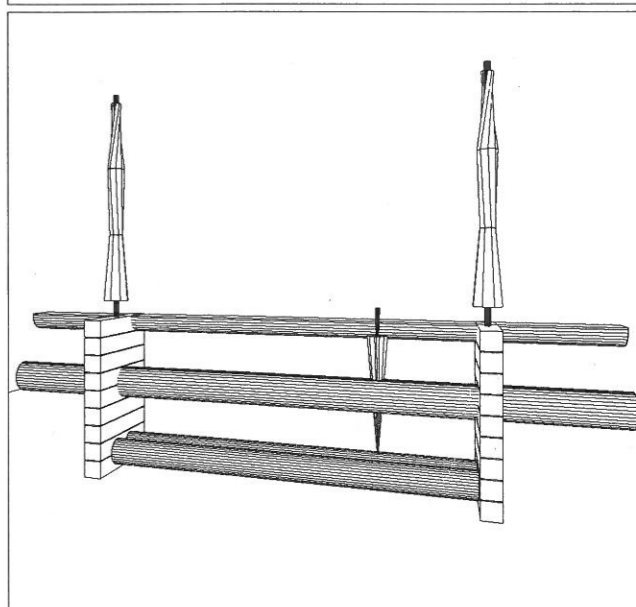
SH-600タイプ立面図 s.1/30



SH-600タイプ断面図 s.1/30



SH-600タイプ使い勝手イメージ断面図 s.1/30



設計主旨

1. 間伐材の"価値"を一般へ周知する素材表現が良い。
2. 簡略な納まりとし、材料が発するイメージ(間伐)を払拭する製品精度を求めた方が良い。
3. 晴天のみ座する道具として成立するベンチを逸脱する方が良い。
4. 座する行為を多元化する装置の方が新たなコミュニケーションを生み出し、結果としてふれあいを発生するかもしれない。

一般的にベンチは景観の良い方向に向けて歩行者等と空間を共有する場所に設置され、休息、読書、飲食等に利用されていますが、往々にして、ベンチの背面には、花壇、植栽、噴水等の心地よい景観が用意されている場合も多数見受けられます。そのような場所には、ときには後ろ向きに座り歩行者に気兼ねなくランチタイムを過ごすベンチがあってもよいでしょう。また、ちょっと細長くても、同僚と向かい合って弁当をひろげて過ごせるピクニックテーブルも役に立つかもしれません。ついでに、そこが、多少の雨の日にも使用できる場所であれば、ベンチは尚、使える道具となり得るのではないのでしょうか。